

## 平成25年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：宗谷地区
- 2 事例報告学校名：稚内市立稚内中央小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 大島 朗
- 4 キーワード：学力向上



### 1. はじめに

本校は、稚内発祥の市街地を校区にしています。昭和41年の開校当時は、2,136名の全道一のマンモス校でしたが、現在は、13学級254名の中規模校になっています。本校では、学校・家庭・地域の連携と協働を視点に、学校全体の組織体制の整備や教職員の意識改革を図り、小中連携して学力向上の取組を推進しています。

### 2. 授業力を高める研修

#### (1) 中央小式学び合い授業

学校研究主題を『仲間とともに考えることを楽しむ子どもの育成』と設定し、授業改善の視点に「中央小式学び合い授業」を位置付けています。(校区の中学校と研究のポイントを共通にしています) 学習内容がわからない児童がいなくなることをねらいに、学び合いを指導過程に位置付けています。子どもが情報の中継役～ゲートキーパーとなって、課題解決を子ども同士でできる活動を組み入れています。本時の目標を全ての児童に達成させ、コミュニケーション能力の向上も目指しています。



中央小式学び合い授業

#### (2) 授業研究・交流

単学級の学年があるため、隣接学年部会のブロックを基本に研究を進めています。プレ授業も含めて全学級複数回の公開をしています。指導案検討は、教師間で模擬授業を行い、子ども目線に立った授業づくりを進めています。また、研究協議は、ワークショップ型研修を行い、一人一人が課題意識を持って研究に取り組んでいます。

#### (3) 特別支援教育、生徒指導の充実～学級経営の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を進めています。全教職員で障がいや発達課題、特性や取り巻く環境を共通理解し、校内特別支援委員会で指導方針、家庭との連携の仕方について協議します。また、校内指導委員会では、児童理解のための交流を定期的に行い、記録化を図ると共に、学級・学年の実態を的確に把握し、方針をもって組織的に指導を進めることができるようにしています。

#### (4) 日常の担任への指導

管理職は1日1回は各教室の授業を参観して、担任の指導状況や児童の様子について把握し、資料(校長室通信)を提示したり、指導助言を行うようにしています。また、学期毎の一覧表提出の際には、担任へ評価激励のコメントを贈っています。

### 3. 教師力を高める連携、環境整備

#### (1) TT・少人数指導

加配教員が、国語・算数を中心にTT、少人数指導による個に応じた指導を進めています。特に35名前後の学級は、少人数指導を実施することで、学習意欲と学習内容の定着で成果を上げています。

## (2) 「放課後学カグンギ塾」稚内市教委研究事業

小学校3, 4年生の希望者が、週2回放課後、それぞれの教室で、国語・算数の基礎学力の補充学習に取り組んでいます。指導者は、再任用教員です。「塾」以外に通常授業中はTT指導を行い、子どもたちも学年の先生として信頼を寄せています。約8割の児童が参加して、補充学習を進めています。



放課後学カグンギ塾

## (3) 基礎学力の時間

5校時の前に、10分間の「学びタイム」を設定しています。テキストは、チャレンジテストを活用し、おもに既習学習の振り返りの時間としています。

## (4) 読書活動の充実

登校後15分間「読書タイム」を設定しています。低学年の参観日には、家庭での読み聞かせのために親子で本の貸し出しを行っています。



参観日 親子で図書の貸し出し

## (5) 小中連携教育

校区の稚内中学校と小中連携教育を進めています。年2回の学校間交流の他に、互いの授業研究への参加、授業の相互乗り入れ（小学校高学年の英語活動、算数科に、中学校教員がTT指導、中学校の数学補習授業に、小学校の教員が指導者として参加）を行っています。また、「情報連携」から「行動連携」のために管理職による小中教育懇談会、小中分掌部長会議、児童生徒支援ネットワーク、小中合同評議員会を行っています。



中学校教員によるTT指導

## (6) 家庭との協働

P T A総会は、180家庭中140名の参加があり、「力あわせで子どもを成長させる」ことを確かめ合っています。学年・学級P T Aは、保護者と教師が子どもの成長や課題について語り合い、共に成長し合う場としています。特に、保護者が子どもの学習（テスト）を実際にやってみて感想を交流し合ったり、指導内容を知ることで、子ども理解を深め、家庭学習の取り組ませ方を学び合えるようにしています。

## (7) 地域との連携

子どもたちに生きる力をはぐくむためには、学校、家庭、地域社会が相互に連携しつつ、社会全体で子どもを育てていくことができるシステムづくりが重要です。大人が協働して、教育力を発揮できる地域づくりのために、中学校と協働で「子どもフェスティバル」「子育て懇談会」を実施するなど、子育てを地域ぐるみで行っています。

## 4. おわりに

学校改善を進め、学力を向上させるための視点は、「授業力」「こども理解力」の向上であり、学校の「チーム力」を高めることです。そのために、校長としてリーダーシップを発揮し、どう関わり、助言するかが鍵だと考えています。